

## 富山地方標高 1000m付近の Almanac

永井知佳（会員）

### 7月中旬

雨上がりの林内、風で揺れる梢からは雫が落ちる。落ちた雫は葉をたたいてぱたぱたと静かな音を立てる。鳥が梢に止まったのか、一瞬せわしく雫が葉を打つ音がして、また、静寂に戻る。近くでクログミの声がする。梢を揺らした主かもしれない。

曇り空で日差しが弱いせいか、夕方6時近くの林内は薄暗い。靄で輪郭がぼんやりとした樹木は白と黒のシルエットになっていて、いつもより大きく見える気がする。ブナの白っぽい樹皮がモノトーンの景色の中でとてもきれいだ。



遠い南の海で生まれた台風が日本を縦断して行った。富山に最接近したのは7月11日の明け方だった。今回の

台風は前日の方が風が強く吹いた。道に立っている工事用の看板がなぎ倒されている。強風でちぎれた葉が道に落ちている。でも、林内の樹木はしなやかに強風に耐えている。

### ウワミズザクラの果実

最近、森の中ではウワミズザクラとミズキの未熟な果実が目につく。見た感じでは実のサイズは十分大きくなっていて、これから熟していくのを待つばかりのように見える。エネルギーを費やして大きくなった果実が台風で落ちてしまうのではないか。強風の後、ウワミズザクラの木の下にはたくさんの未熟な果実が落ちていた。落ちていた果実を拾って帰ってよくよく見てみると、ほとんどの果実には黒い小さな点がついていて、虫か何かに汁を吸われたようだった。健全な果実は簡単には風で飛ばされないようだ。（写真はウワミズザクラの落下した果実）



ウワミズザクラの樹冠ではだんだんと緑色の未熟な果実が黄色っぽい白色に変色してい

く。ウワミズザクラの果実が真っ赤に熟すまでの過程を見たことがなかったので、途中にはこんな色になるのかなと思って観察していると、日に日に果実の数が減っていく。樹冠下には黄色っぽく変色した果実が落ちていて、落ちた果実にはまた黒い点がついていた。

別の日に同じ木を見上げると、**カメムシ**が1匹緑色の果実の上に止まっていた。双眼鏡で見ても樹上で小さな生き物が何をしているか容易に見えないものだけれども、たまたま目に止まった。ずっと同じ姿勢で緑色の果実の上にいる姿からは、黒い点の仕業の主じゃないかと思った。

ウワミズザクラの樹冠からひとしきり黄色っぽく変色した果実が落下すると、樹上に残るのは緑色の未熟な果実だけになった。果実が熟して赤く色づいていくのはまだ先のようなのだ。



(写真はウワミズザクラの果実)

他にになにか落ちていた果実がないかと見て回ったところ、**サワグルミ**の未熟な実が少し落ちていた。サワグルミは翼果が房状についている。いかにも風にあおられそうな形をしている。ぱっと見には落下したときの擦り傷のようなもの以外には、外傷はなかった。サワグルミの方は、未熟時に台風に伴う強風で落ちたのではないかと思った。

### マイマイガの幼虫

今年、6月から7月上旬にかけてブナ林の中には**マイマイガ**の幼虫がたくさんいた。写真は脱皮中のマイマイガ。マイマイガの幼虫は葉を食べるが、植物の種類はこれといって決めていないようで、ブナ・ミズナラ・マンサクなどなどいろいろな植物の葉に毛むくじゃらの幼虫の姿が見られた。6月、葉の展開が終わり葉が淡い黄緑色からしっかりした濃い緑色へと変わった頃、マイマイガはいろいろな植物の葉を食べていて、一時は落ちてくる虫糞が葉に当たって雨音みたいに聞こえることもあった。肩に落ちてきた虫糞は、手榴弾みたいな形だった。



マイマイガは別名**ブランコケムシ**とも呼ばれていて、糸を吐いて樹冠でぶら下がっている。知らぬ間に肩に乗っていたマイマイガをずいぶん遠くまで運んでしまった日もある。個体の分散に手を貸したことになった。7月中旬に入りしばらくして、林内散策中にぶらさがらるマイマイガの幼虫にわずらわされていないことに気づいた。あんなにたくさんいた幼虫はどこに行ったのだろう。探してみると、無事にサナギになったものと病気で死んでしまったものが見つかった。病気で死んでしまったものはブナなどの樹木の幹にはりついたまま、ミイラのようにになっていた。

## クマの親仔

ところで、7月上旬、オオヤマザクラの実を食べに来ていたクマの親仔は、7月中旬になってからもアリを食べている姿を見せてくれる。(写真はアリの巣を食べている仔グマ)

近くでクマが訪れる場所は何箇所かあって、特によく来ている気がする一角に私も邪魔してみた。

そこは緩い短い斜面で遠くから見ると上部から中部にかけて、草がまばらで乾いた色の土が多く見える。だんだんと近づくとアリの巣が大量に集まっているのがわかった。アリが動き回っているところをよく見ようと近づいてじっとしていると、だんだんと足がもぞもぞしてくる。んっ?と思って見下ろすと、私の足の下にも大きな巣があり、アリが膝下まで点々と登ってきていた。アリは払っても払っても上ってくる。堪えられずに逃げ出して、ようやくアリを払い落とすことができた。



アリを食べる立場なら、足に上ってくるアリを次々に舐めとれば、結構食べられそうな気もする反面、タイミングが悪いと噛み付かれたりして痛そうだなと思う。煮たり炒めたりして、私が毎日食べている食事は反撃してこない。これはかなり有難い気がしてきた。

アリを食べる立場なら、足に上ってくるアリを次々に舐めとれば、結構食べられそうな気もする反面、タイミングが悪いと噛み付かれたりして痛そうだなと思う。煮たり炒めたりして、私が毎日食べている食事は反撃してこない。これはかなり有難い気がしてきた。

## 7月下旬

梅雨はまだ明けていない。雨は降り続けているが、それでも気温はようやく上がってきた。曇りの日も雨の日も天気にかかわらず半袖で過ごすことが多くなってきている。

## 冬芽

ブナは前年の夏の気温で、翌年の開花数が左右される。もしかしたら、今がちょうどその時期かもしれない。樹上には翌年に芽吹く冬芽が出来ているのだろうか?

ブナの樹冠にはとても手が届かないので、ブナの下枝を引き寄せると、そこには葉の付け根に小さな小さな冬芽が出来ていた。(写真はブナの冬芽)

冬芽は芽鱗に包まれていたり、丸まった葉を星状毛が保護している裸芽だったり、形は種類によっていろいろある。ブナの冬芽は芽鱗に包まれているタイプの冬芽で、芽鱗の中

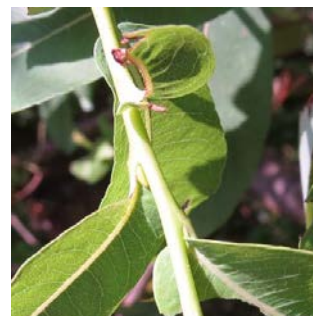


には小さな葉が葉脈を軸に折りたたまれて、整然と収納されている。以前、3月頃ブナの冬芽を開いてみたことがある。冬芽の中のブナの葉は透明感のあるきらきらした毛に覆われていてとてもきれいだった。

今、樹上にある冬芽はまだまだ小さくて冬芽の中のをのぞいてはみななかったが、まだ、梅雨も明けていないこの時期から植物は来春に備えている。

ブナ以外の樹木はどうだろうと、冬芽探しをしてみると、もう他の樹木にも成長途中の冬芽が姿を見せている。

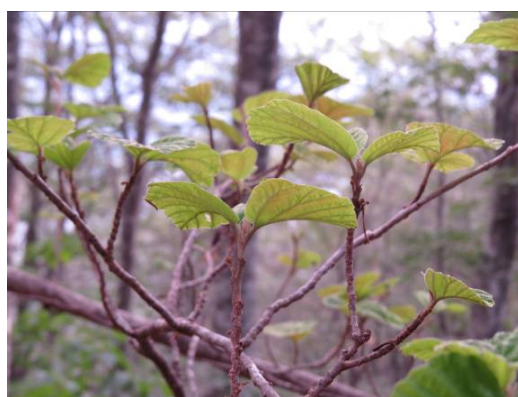
コシアブラは枝の先端に頂芽になるだろう突起ができています（写真左）。イヌコリヤナギ（写真右）やミズキ



ではまだ木質化の進んでいない柔らかな枝に緑色の芽がついていた。ヤマブドウにはくちばしのような形の冬芽の形がすでに見て取れる。ウワミズザクラにも芽鱗で包まれた小さな冬芽ができています。

これから秋にかけて、今見つけた小さな冬芽が中身を充実させていくことを考えるとわくわくする。

7月上旬マイマイガの幼虫が幾匹もついていたマンサクがあった。樹高 1.5m ほどのその木を7月22日に見に行くと、裸芽を残して葉は全て食べつくされていた（写真左）。これからこの木はどうなってしまうのか？7月31日に再び見に行くと食べ残された裸芽が展葉していた（写真右）。葉が濃い緑になった林内に新しく開いたマンサクの萌黄色の葉がまぶしく見えた。緊急時に備えて素晴らしい再生機能を準備していることがわかる。



## クマの親仔

7月中旬から引き続き、クマは数日おきにアリの巣を訪れては食事をしていく。そこそこ頻繁に訪れてくれるので、なんとなく2頭のクマは見分けがつくようになった。大きめのお母さんと子供2頭、小さめのお母さんと子供2頭、同じ場所のアリを時間や日をずら

しながら利用しているみたいだ。そこにときどき単独のクマが混じる。

もっとよく見て、人相ならぬクマ相がわかるようになったらうれしいかもしれない。

## 8月上旬

7月28日に富山地方の梅雨が明けたという話をテレビで見た。これから夏らしくなっていくのだろうか。

平野部で気温が38度を越すような日には、標高1000mでも30度近くなり、風がない日には涼しい気候に慣れた体にはそれなりに蒸し暑く感じたりする。

7月下旬までは首まで布団を引き寄せて眠っていたが、8月上旬になり布団を跳ね飛ばして眠る日も増えた。

## 果実

夏の林内には、緑の実が成長しそこかしこに見られる。ウワミズザクラ、ヤマブドウ、クロモジ、タムシバ、ナナカマド、サワグルミ、ウリハダカエデ、マユミなどなど。

色づく前の実は目立たない。樹上にこっそりと潜んでいるように思える。そんな中、少しずつ紺色に色づき始めているミズキや真っ赤なクマイチゴは目を引く。

(事務局から)

クマの写真を見て

頭と身体のバランスから見て仔グマのように見えます。人の気配に気付いていないのか、自然体のクマの生態写真です。樹上のクマを望遠レンズで捕らえた写真は良く目にしますが、このような写真は非常に少ないと思います。筆者が毎日散策する賜と言えるところです。

昔、ニホンジカの写真集を見たとき、その多くは臀部の白い毛が立って、ハートの模様になっているものが多かった記憶があります。それはシカが興奮している写真です。でもニホンジカの生息する山里に居を構え、自然と一体化した生活を送る人の写真集には、そのような写真を見つけることができなかつたことを思い出します。